

団体名

ハピサンBOOKS

団体概要

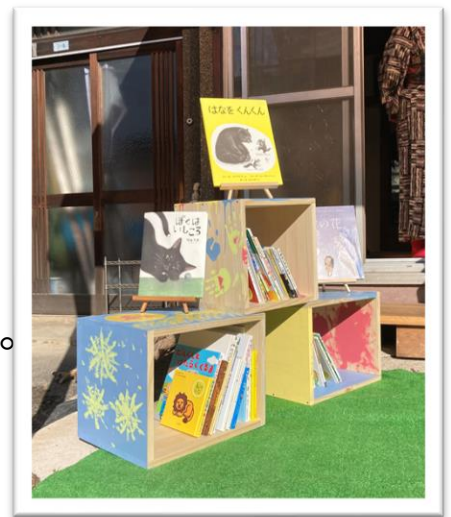
ハピサンBOOKSは、2020年より活動している本と一緒にコミュニティを作ることを目的とした団体です。本を貸したり借りたり、そこでお話したり、街全体に本を介したコミュニティが生まれるよう活動しています。

活動名：本と一緒にコミュニティスペース作り

1

活動の目的

本を読むのは一人の時間。でも、もしそこに図書館があったらどうでしょう？本を貸り、返す時には必ず会話が生まれます。「ありがとう」「こんにちは」の一言でも。その一言の会話で繋がる気持ちがあります。その気持ちがあれば、そこに小さなコミュニティができます。本と一緒に成長の豊かさを育み、本を通じてコミュニティの生まれる場を作る。そして街のコミュニティの活性化していく。ハピサンBOOKSはそのような活動を目的としています。



2

活動の内容



ハピサンハウスという古民家を改装したコミュニティスペースで定期的に図書館を開催したり、地域の神社で出張図書館を開催したり、近所の子どもたちや大人たちが来場し本と人とのふれあいを育んでいます。

また、本箱作りワークショップを開きみんなで本を共有するスペース作りをしました。

小さな子どもには読み聞かせなどもし、保護者以外の大人とのコミュニケーションを育み広げていくこともしています。大人は共通の話題の本を介してすることで、より親交を深め新たなコミュニティの場づくりができるようサポートしています。

3 活動の振り返り

コロナ禍で人が集まることが難しいなか、子育て中のお母さんを中心に、生まれたばかりの子どもから、わらべうたを教えてくれる年配の方まで来てくださり、少しずつ認知されてきた。

ただ、子育て広場も兼ねているので、子育て中のお母さんが多くなることもあり、もっと広い世代に「誰でも来ていいんだよ」という認識を広められたらと思います。

しかし、活動のコセプトをお話しすると、とてもよい反響をいただき「こういう場はとてもありがたい」「こうやってみんながのんびり集える場所って意外とないよね」「一人で来ても本を読んでものんびりできるから、人との距離をちょっと取りたい時などにも来れるのが良い」などの話をいただき、場の必要性を強く感じ、そしてこの場の雰囲気は決して悪くなくとも感じました。

そのような点を鑑みても、街の中にはこのような場があることが、生活する上で必要であるという自信が得られたことが今回の活動の最大の成果です。

